2025 奈良・平城京探訪記

池田義光

【旅行記：　奈良・飛鳥の歴史探訪が実現したのは】

昨年に引き続き、今回も池田と中澤さんで旅をした。中澤さんとは安曇野市の公民館報記者仲間として知り合った。特に仲良くなったのは一昨年のことである。池田の千葉県船橋市の社会科仲間が夏に安曇野・松本に来訪することになって、松本案内の下見をしたいと思い、中澤さんが松本と松本城に詳しいと言っていたことを思い出し、下見の案内人をお願いしたのがきっかけである。それがきっかけで仲良くなり、中澤さんとはその後もう一回、松本城とその周辺を歩いた。そして２度目の松本歩きの時に、中澤さんから奈良行きの誘いを受けた。それは以前に中澤さんが奈良探訪をしたことがあって、いずれまた行きたいと話してくれたときに、その時は池田も行きたいから是非誘ってほしいとお願いしていたからなのだ。そして昨年2024年に中澤さんの計画で、奈良特に・藤原京探訪の実現となった。

そして、昨年の探訪の時に、今度は奈良・平城京探訪がしたいねと話し合っていたのが、今回実現したのである。

第１部　資料編

資料１　奈良県

(1)**位置**：奈良県は近畿地方のほぼ中央に位置し、海に接しない内陸県である。

(2)**面積**：奈良県は全国で 8 番目に狭い県。東西約 79km、南北約 103km と南北に長い長方形をしている。

(3)**人口**：人口約 130 万人。奈良県は北西部の奈良盆地を除けば険しい山々がそびえている。可住地面積が全国最下位で、しかも 9 割以上が奈良盆地（大和盆地）に集中。

(4)**地形**：吉野川に沿って走る中央構造線により「北部低地」と「南部吉野山地」とに大別できる。北部低地帯の**奈良盆地**は標高 500m ～ 600m の山地が四方を囲んでいる。南部の**吉野地域**は紀伊山地の急峻な地形で占められる森林地帯である。

(5)都市圏：県北部は大阪都市圏・京阪神大都市圏に含まれ、大阪や京都への交通の便もよく大都市近郊地域として発展している。その一方、世界文化遺産である古都奈良の文化財や法隆寺地域の仏教建造物など歴史的文化的遺産にも恵まれている。

南部地域はほとんどが山地であり、吉野杉に代表される林業や紀の川におけるレジャーなど自然を生かした産業があるほか、この地域でも世界文化遺産の紀伊山地の霊場と参詣道といった歴史的文化遺産に恵まれている。

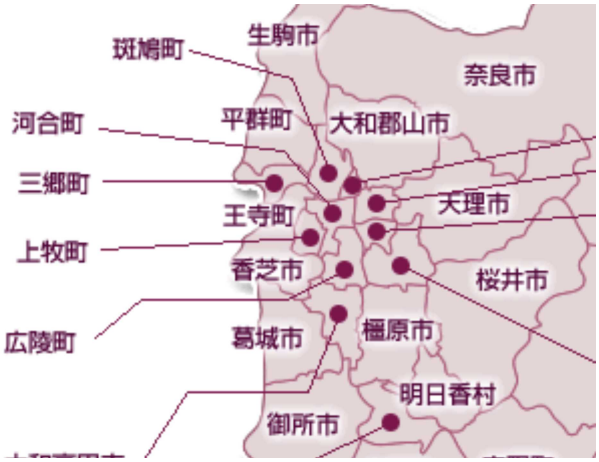
(6)奈良県（奈良盆地）の古墳時代・奈良時代

奈良盆地には紀元 3 ～ 4 世紀ごろ(古墳時代前期)の古墳が多数残されている。中には墳丘長 200 m を超す巨大古墳が 6 基も存在する。これらの古墳群をまとめて大倭古墳群と呼称することもある。曾布地域の佐紀丘陵には佐紀盾列古墳群、馬見丘陵周辺には馬見古墳群が所在する。

つまり、紀元 3 ～ 4 世紀ごろの奈良盆地には、たくさんの古墳を残したような強大な勢力があったのである。この奈良盆地(ヤマト・後の大和)の豪族を中心とした畿内の豪族たちが強大な力で周辺地域に覇を唱えていたのである。これがヤマト政権(ヤマト王権)であり、その後長い年月を経て、他地域との攻防や交流の末、日本地域の大半を支配する大勢力となったのである。

ヤマト王権成立～ 8 世紀末まで、この地域にヤマト王権の累代の大王・天皇の「宮」が置かれた。大和時代から飛鳥時代にかけては、桜井市・橿原市・高市郡に「宮」が置かれていることが多かった（飛鳥京跡）。さらに日本初めての「都城」としての「藤原京」は、持統天皇 4 年（690 年）に着工され、持統天皇 8 年（694 年）に完成した中国風都城として知られる。その後、和銅 3 年（710 年）に同じ奈良盆地北部の「平城京」に遷都が行われ、奈良時代となった。

資料２　奈良市



(1) 概観

奈良市は、奈良県の北部に位置。奈良県の県庁所在地で人口 34 万は県最多の市で、中核市に指定されている。奈良時代に都が置かれた古都で京都に対して南都とも呼ばれた。

(2) 地理

奈良市は奈良県北部の奈良盆地北端にある。市街地の標高は約 60m である。市東部は大和高原の一部をなし標高 300m ～ 600m の高地が続く。市街の北は古代に平城山（ならやま）と呼ばれた丘陵地帯で京都府と接している。平城山を越えて山城と通じる奈良坂は古くからの重要交通路の一つ。

市域は東西に広く、①東部は山間地、②中東部は文化財を多数抱え国際観光文化都市としての顔を持つ中心市街地、③西部は大阪の衛星都市・ベッドタウンとしての性格を持ち住宅地として開発が行われてきた。

(3) 歴史

①古代

奈良市街地の西にはウワナベ古墳など 5 世紀の巨大古墳が築かれ、佐紀盾列古墳群を形成している。

現在の市域周辺が日本史の舞台に登場するのは、710 年に都が藤原京から平城京に遷ってからのこと。その後、何度か短期間の遷都があったものの長岡京に遷る 784 年まで、この地が日本の中心となっていた。長岡京への遷都後も、東大寺や薬師寺、興福寺などの仏教寺院勢力がこの地域に残り、南都と呼ばれた。

②中世

中世になってからも、興福寺が大和守護職に任じられるなど広大な荘園を有する仏教寺院勢力は依然として影響力を保持していた。むしろ大寺院の勢力は戦乱の時代においてこそ影響力が大きく、そのために何度か戦火に見舞われた。2 度の大仏焼失事件（南都焼討と東大寺大仏殿の戦い）などはその象徴的な出来事といえる。しかし、室町時代から戦国時代にかけて、他国および近在の所領も含めて在地の大和武士団が実効的な支配を行うようになったために大寺院の勢力は衰えた。

③近世

江戸時代には江戸幕府の奈良奉行が設置されて徳川家の直接支配地になった。江戸時代の寺町の雰囲気を残すのが奈良町（ならまち）である。また、現在の市域の南部は伊勢国の津藩の飛び地（古市町付近が藤堂家の領地）であった。同じく奈良市域の北東部は柳生藩の領地となっていた。

(4) 奈良市の主な観光スポット（7つの世界遺産）

①東大寺
②春日大社
③興福寺
④元興寺
⑤平城宮跡
⑥薬師寺
⑦唐招提寺

①東大寺

「奈良の大仏」で知られる寺院。奈良時代創建。平城京に全国の国分寺の中心（総国分寺）として建立された。大仏殿は世界最大級の木造建造物。天平 15 年（743）に聖武天皇が盧舎那仏造立の詔を発し、天平勝宝 4 年（752）に大仏開眼供養をした。治承 4 年（1180）平重衡の軍勢によって大仏殿をはじめ伽藍の大半を失った。重源上人によって再興されたが、永禄 10 年（1567）の三好・松永の乱で、わずかな建物を残して再度焼失してした。

現在の伽藍の多くは江戸時代に再興されたものだが、各時代を代表する国宝建造物を含む多くの文化財を伝えている。

②春日大社

奈良時代に、平城京の守護と国民の繁栄を祈願するために創建された。中臣氏・藤原氏の氏神を祀る。全国に約 1000 社ある春日神社の総本社。

③興福寺

法相宗の大本山の寺院。南都 7 大寺の一つ。藤原氏の氏寺として藤原氏の隆盛とともに寺勢を拡大。古代から中世に強大な勢力を誇った。神仏習合の影響をうけ、春日社と一体化し、時には僧兵を従えて朝廷へ強訴に及ぶまでになった。

④元興寺（がんごうじ）

南都七大寺の一つ。蘇我氏の氏寺として蘇我馬子が飛鳥に建立した寺院（法興寺・飛鳥寺）。平城京遷都に伴って平城京内に移転し元興寺となった。

⑤平城宮跡

710 より都となった「平城京」の中心で天皇の住まいや役所があった「平城宮」の跡。

1998 年世界遺産に登録された。長期間にわたって調査や復原整備が進められており、東西 1.3km、南北 1km の広大な敷地に第一次大極殿、朱雀門などが復原されています。2018 年（平成 30 年）には 5 つの複合施設を含む「朱雀門ひろば」がオープンし、平城宮跡歴史公園となった。

⑥薬師寺

法相宗の寺院。南都七大寺の一つ。天武天皇の開基により藤原京に造営されたが、平城京遷都後に現在地に移転。創建当時の唯一の遺構である東塔は白鳳文化の様式を伝える。

⑦唐招提寺

南都六宗の一つである律宗の総本山。聖武天皇の招きに応じ、苦難の末、日本にやって

きた唐僧鑑真和上によって建立された。鑑真和上は日本に着いてから 5 年間、戒壇院での授戒を制度として確立するために東大寺で過ごしたが、東大寺を引退後、故新田部親王（天武天皇の第七皇子）の旧宅を賜り、そこを「唐律招提」と称し、戒院として教学の場を営んだ。平安時代初頭に伽藍全体が完成し、「唐招提寺」とした。

資料 4　奈良時代

(1) 奈良時代はいつからいつまで

和銅 3 年（710 年）から奈良（平城京）に都が置かれた時代。狭義には長岡京遷都（784 年）まで（710 ～ 784）。広義には平安京遷都の延暦 13 年（794 年）まで（710 ～ 794）。

(2) 奈良時代以前

645 年の「乙巳の変」をきっかけに「大化の改新」が始まり、大王（天皇）を中心とした強力な中央集権国家作りが進み、701 年に大宝律令が完成して律令制度が実施され、694 年には日本最初の都城制である「藤原京」ができた。「藤原京」は、天武天皇の時に造営が始まり持統天皇の時に完成して、694 年から 710 年の平城京遷都まで持統・文武・元明天皇の三代の「都」となった。「藤原京」の規模は、大和三山を中に含んだ実に約 5.3 km 四方であって、「平城京」は東西 4.3km 南北 4.8km で外京（東西 1.6km 南北 2.1km）なので、藤原京が後の平城京よりやや大きな規模であった。

(3) 奈良時代の年表

710 年（和銅 3 年）　元明天皇が平城京に遷都する
712 年（和銅 5 年）　『古事記』が完成する
720 年（養老 4 年）　『日本書紀』が完成する
723 年（養老 7 年）　三世一身法が制定される
724 年（神亀元年）　聖武天皇が即位する
729 年（神亀 6 年）　長屋王の変が起こる
740 年（天平 12 年）　藤原広嗣の乱が勃発する
741 年（天平 13 年）　国分寺建立の詔が発布される
743 年（天平 15 年）　大仏造立の詔が発布される
757 年（天平勝宝 9 年）　養老律令が施行される
765 年（天平神護元年）　恵美押勝の乱が勃発する。道鏡が太政大臣禅師となる
784 年（延暦 3 年）　桓武天皇が長岡京に遷都する
794 年（延暦 13 年）　桓武天皇が平安京に遷都する

(4) 奈良時代はどんな時代だったか？

①都の平城京が政治・経済・文化の中心地だった

「平城京」は東西 4.3km 南北 4.8km で外京（東西 1.6km 南北 2.1km）。人口 10 万人ほど。

大内裏を中心として、碁盤の目のように貴族の私邸や寺社、庶民の住宅が混在する構造となっていた。

②律令制度による中央集権国家の仕組みが整えられた

国の統治の仕組みは律令に基づいて行われた。

国の統治者である天皇と中央官僚としての上級貴族が都に住み、中央政府（朝廷）を運営し、中央政府（朝廷）の役所は二官（太政官・神祇官）と八省（中司省・式部省・治部省・民部省・兵部省・刑部省・大蔵省・宮内省）が全国統治の行政を分担して行っ

た。全国は約 66 の「国」に分けられ、その下に「郡」が、さらにその下に「里」が置かれた。各国には国府（国の行政の中心の所在地）が定められ、国府に国衙(国の行政役所）が置かれ、国衙には朝廷から下級貴族が国司（国の長官）として派遣された。郡の郡衙（郡行政の役所）には地元の有力豪族が郡司(郡の長官）として任命され、郡の行政を終身行った。里の長官として里長が里の行政を行った。

奈良時代は僅か 200 名程度の皇族・貴族が約 450 万人の人民を支配した。

国土は原則として国家（天皇）のものとする「公地公民制」が採られた。

税制は、人民に国家の土地である「口分田」が分け与えられ、人民はそこを耕作して収益を得る代わりに租・庸・調などの税を納めなければならなかった。納税は原則として、納税者が都に運ぶことになっていて、都に運ばれた税を国家と貴族(官僚）が使用（消費）する仕組みだった。

③激しい権力争いの中で藤原氏が権力を強めた

奈良時代には、200 名程度の皇族・貴族層の支配者のさらに一握りの上級の人々による権力闘争が激しかった。特にその争いの中心となったのが、皇族と藤原不比等以来の藤原氏であった。簡単に流れを見ていくと、≪藤原不比等→長屋王→藤原四子→橘諸兄→藤原仲麻呂(恵美押勝)→道鏡→藤原百川≫という流れで、激しい権力争いが繰り広た。

中でも、注目したいのが藤原(中臣）鎌足の子、藤原不比等である。奈良時代初期の元明・元正天皇は女帝で、その時に臣下で実質的に最上位の地位にあったのが、右大臣・藤原不比等だった。藤原不比等は娘宮子を文武天皇に嫁がせ、その子の皇太子(後の聖武天皇）に娘光明子を嫁がせるなどして、天皇との結び付きを深めて権力を握った。この藤原不比等が、後に藤原氏が絶大な権力を握る基盤となった。不比等は『日本書紀』の編纂を実質上リードするなど、奈良時代の基本路線は、この藤原不比等によって作られたと言える。

藤原不比等が死去すると、皇族の長屋王が右大臣となり政権を握った。しかし不比等の子の武智麻呂(むちまろ)・房前(ふささき)・宇合(うまかい)・麻呂（まろ）　の 4 兄弟（藤原四家）は策謀を巡らせ、天平元年(729 年）に左大臣となっていた長屋王を自殺に追い込み（長屋王の変)、さらに光明子を皇后にすることに成功した。だが、天平 9 年(737 年）に流行した天然痘で 4 兄弟はあいついで病死した。

かわって皇族出身の橘諸兄(たちばなもろえ）が政権を握り、唐から帰国した吉備真備や僧玄昉が聖武天皇に活躍した。そこで藤原宇合(うまかい）の子、広嗣が、天平 12 年(740 年）吉備真備と僧玄昉の排除を求めて反乱を起こした（藤原広嗣の乱）が、鎮圧された。

聖武天皇の娘、孝謙天皇の時代に武智麻呂(むちまろ）の子、仲麻呂が光明皇太后と結んで勢力を伸ばしたので、橘諸兄(たちばなもろえ）の子、橘奈良麻呂が藤原仲麻呂を倒そうとして、逆に滅ぼされた(橘奈良麻呂の変)。藤原仲麻呂は淳仁天皇を擁立して天皇から恵美押勝の名を賜り、大師(太政大臣）にまで昇った。

しかし恵美押勝は、後ろ盾の光明皇太后が死去し、僧道鏡を寵愛する孝謙太上天皇と淳仁天皇が対立すると、764 年に挙兵した（恵美押勝の乱）が敗北した。淳仁天皇は廃されて孝謙太上天皇が重祚して称徳天皇となった。

僧道鏡は称徳天皇の支持を得て、太政大臣禅師、さらに法王になって権力を握った。この時、称徳天皇が宇佐神宮の神託によって道鏡に皇位を譲ろうとしたが、和気清麻呂らの行動で挫折した。

称徳天皇が死去すると道鏡は退けられた。藤原式家の宇合(うまかい）の子、百川によって、長く続いた天武天皇系統から久しぶりに天智天皇系統の光仁天皇が立てられた。

④奈良時代は仏教が栄えた時代だった

奈良時代、特に聖武天皇の在位期間は、天然痘の流行や自然災害があり、国内が非常に不安定だった。そこで、聖武天皇は仏教の力で日本を安定させる「鎮護国家」を願って、「国分寺建立の詔」と「大仏造立の詔」を発布した。これにより 6 世紀半ばに百済から公伝した仏教が、8 世紀には日本各地で国分寺と東大寺大仏建立が始まり、その結果、日本全土に仏教が広がった。

1)鎮護国家の仏教という考え

本来の仏教は個人救済を目的とするもので、国家を救うという教えはない。しかし、中央集権を確立した奈良時代の日本では、国家を救うことを仏教の目的とし、国家が救われれば民衆も救われるとして、国家のために仏教を利用した。そこで大和朝廷は、東大寺大仏造立や国分寺・国分尼寺建立などを国家事業としておこなった。

2)朝廷は仏教を強く保護するとともに国家管理して統制した

◎都に大寺院を続々と建設や招来：平城京に南都 7 大寺（薬師寺・東大寺・大安寺・元興寺・西大寺・興福寺・唐招提寺）などの多数の寺院を建設または招来した。

◎全国に国分寺と国分尼寺を建設：全国の国府に「国分寺」と「国分尼寺」を創立し、「総国分寺は東大寺」「総国分尼寺は法華寺」というしくみを作った。

◎国営の寺と国家公務員の僧侶

◎国家による僧侶育成制度：日本では正式な僧侶になる戒律などのあり方をしらなかったので、聖武天皇が中国の高僧鑑真を日本に招いた。

3)奈良時代の僧は政治にも介入した

◎南都七大寺の政治力：当時の僧侶は最新文明を身に着けた知識人として天皇や朝廷の政治に影響を与えることもあった。

◎僧侶の力：僧侶は貴族と並ぶ特権階級であった

◎天皇になろうとした道鏡

4)奈良仏教(南都六宗）は本来は学問仏教

南都六宗（三論宗・法相宗・成実宗・倶舎宗・律宗・華厳宗）は仏教の理論研究集団で学派的な色彩が強い。

5)奈良時代に神仏習合の始り

日本在来の神と外来の仏教の仏を習合(融合）させる考えが始まった。神は仏に救いを求め、かわりに神は仏を守るという、神仏持ちつ持たれつの関係が生まれ、長年続くことになった。

⑤公地公民制が早くも崩れ初め、初期荘園成立に結びついた。

奈良時代は「公地公民制」がとられ、人民には口分田が与えられ、人民は租庸調などの税を国家に納める仕組みができたが、人民の生活は概して苦しく、災害などがあると逃亡する人民が増えて荒れ地ができた。その上、人口増により口分田不足が生じ、国家は税収増のために荒れ地や原野の開発奨励し、「墾田永年私財法」を制定したので、「公地公民」の原則がくずれ始めた。私有地となった墾田はやがて初期荘園となった。

⑥平城京の貴族を中心に天平文化が花開いた

奈良時代は、遣唐使などの影響によって唐文化や国際色豊かな文化が日本へもたらされた。特に平城京を中心に、壮大で華麗な宮殿や寺院などの建造物や仏像などすぐれた美術品が次々と造られ、聖武天皇の天平年間に最盛期を迎えた。

また、天武天皇の頃に始められた国司編纂事業は奈良時代に『古事記』『日本書紀』として完成した。全国各地の地誌として『風土記』が編纂された。日本最古の和歌集である『万葉集』が成立した。

資料５　平城京

(1) 平城京とは

①平城京が都だった期間

平城京は、今から 1300 年ほど前の西暦 710 年に、現在の奈良市につくられた都。それまでの都だった藤原京から元明天皇が平城京に遷都した。784 年に長岡京に遷都するまでの平城京を中心とした 74 年間（または 794 年に平安京に遷都するまでの 84 年間）は、「奈良時代」と呼ばれている。ただし途中聖武天皇は、何度も平城京以外に遷都している（平城京→ 740 年 12 月に恭仁京→ 744 年 2 月に難波宮→ 745 年の正月に紫香楽宮→ 745 年 5 月には再び都は平城京に遷された）

②藤原京遷都から平城京に遷都した理由

藤原京遷都からわずか 16 年で平城京に遷都した理由は明確に分かってはいないが、以下のようなことが推定されている

1) 藤原京で疫病が蔓延し、縁起が悪いため
2) 元明天皇の考えでは平城の地が占い等で優れた土地であったため
3) 遣唐使により、「藤原京は宮を京の中央部に置いたが、唐の都長安は皇帝は北に位置し南を向くべしと言う天子南面思想で皇居は都の北に位置している」ことを知ったため
4) 元明天皇は藤原不比等の傀儡の女帝で、平城京遷都は藤原不比等の主導で藤原不比等の力を示すために行った

③平城京の大きさ

東西約 4.3km、南北約 4.8km の長方形のさらに東側に外京（東西約 1.6km、南北約 2.1km）を加えた総面積は約 2,500 ヘクタール。碁盤の目のように整然と区画されたスケールの大きな都市。都（京）の南端にある羅城門から朱雀門までまっすぐにのびるメインストリート・朱雀大路は幅約 74 m で広場と呼びたくなる広さ。朱雀大路の西側を右京、東側を左京という。

④平城京の中枢は、平城宮

平城宮は、政治・儀式の場である大極殿・朝堂院、天皇の住居である内裏、役所の日常的業務を行う官衙や宴会を行う庭園など、都を治める官公庁が集まった。平城宮は、東西・南北ともに 1　km の正方形に、東側に東西 250m，南北 750m の張り出し部を持つ。平城宮の周りには大垣がめぐらされ、朱雀門をはじめ 12 の門が置かれた。平城宮に入ることができたのは、皇族や貴族、役人や使用人など、ごく限られた者。

⑤平城宮の人口

約 200 人の貴族と家族、約 1 万人の役人、そして 10 万人以上の人が暮らしていたといわれている。

⑥なぜ？　ふたつの大極殿

「大極殿」は、天皇即位などの大切な儀式がおこなわれた場所。平城宮跡には大極殿の跡が２つも残っている。それはなぜか？

聖武天皇は 740 年から 745 年まで、平城京から都を転々と移し替えたが、その際それまであった大極殿を解体し移築した。そして 745 年には再び平城京を都としたが、このときには以前の大極殿があった東側に新しい大極殿を建てた。

つまり、現在の平城宮跡にみられる「第一次大極殿」は元明天皇が建てた大極殿で、「第二次大極殿」は聖武天皇が建てた大極殿ということ。

(2) 国営平城宮跡歴史公園

「国営平城宮跡歴史公園」は、「古都奈良の歴史的・文化的景観の中で、平城宮跡の保存と活用を通じて、“奈良時代を今に感じる”空間を目指して、2008 年（平成 20 年）から整備を進めている国営の歴史公園。

多岐にわたる復原整備事業の中でも、ひときわ目を引くのが「朱雀門」「第一次大極殿」「大極門」などの復原建造物。復原にあたっては、古代建築の伝統技能を継承する様々な分野の多数の工匠の技・経験・知識が活かされている。

◎「朱雀門広場」

平城宮跡の南方に位置する「朱雀門」。朱雀門前の広場は、奈良時代の人々にとってかけがえのない祝祭の場だった。外国使節の送迎や、大勢の人たちが集う歌垣などが行われ、新年には天皇が門まで出向き、新年を祝うこともあった。「朱雀大路」と「二条大路」の復原整備により、往時の景観を彷彿させる広場空間が復活して、奈良時代と今をつなぎ、1300 年の時を超えて新たなにぎわいの拠点としてよみがえりました。

朱雀大路を挟んで東側は「平城宮いざない館」、西側は「観光交流施設」が整備され、古都奈良の魅力を楽しめる空間となっている。

◎「第一次大極殿院」

平城宮跡の北方に位置する「第一次大極殿院」。第一次大極殿院は、「大極殿」を含む南北約 320 m、東西約 180 mの区間で、古代の宮都における中心施設で天皇の即位や外国使節との謁見など国家の重要な儀式が行われた場所。「大極殿」は 2010 年（平成 22 年）、「大極門」は 2022 年（令和 4 年）に復原され、現在は「東楼」の復原工事が始まっている。その後、「西楼」「築地回廊」の復原整備を進める予定。

第2部　旅行編

旅程

【１日目】2025年３月28日（金）

(1)長野県安曇野市から奈良県奈良市へ

長野県安曇野市穂高駅→松本駅→名古屋駅→京都駅→近鉄奈良駅

東横イン近鉄奈良駅前ホテル

(2)平城宮跡探訪

【２日目】2025年３月29日（土）

平城宮跡探訪

【３日目】2024年３月30日（日）

春日大社探訪

奈良県奈良市から長野県安曇野市へ（１日目の逆の経路）

【１日目】：2025年３月28日（金）

(1)長野県安曇野市から奈良県奈良市への旅

①長野県安曇野市穂高駅　→　近鉄奈良線・近鉄奈良駅へ

穂高 9:18　→　**松本** 9:46（6分待ち）9：52特急しなの6号→(6駅2時間9分)　→

12:01 **名古屋**（9分待ち）12:10新幹線のぞみ25号博多行き　→(3駅53分)→

12:44 **京都**(26分待ち、結局京都駅のレストランで天ぷらそばを食べた)13:10 近鉄奈良線特急→（2駅）→ 13:38 大和西大寺 13:44 近鉄奈良線快速急行→（2駅）→ 13:50 **近鉄奈良駅**

②近鉄奈良駅　→東横イン近鉄奈良駅前着

近鉄奈良駅西改札から出て、5番出口から徒歩1分。本当に目の前の近さであった。

近鉄奈良駅

近鉄奈良駅（きんてつならえき）は、奈良県奈良市東向中町にある近畿日本鉄道（近鉄）奈良線の駅であり、同線の終点。駅長配置駅である。駅番号は A28。実質的な奈良市の中心駅である。

東横イン近鉄奈良駅前

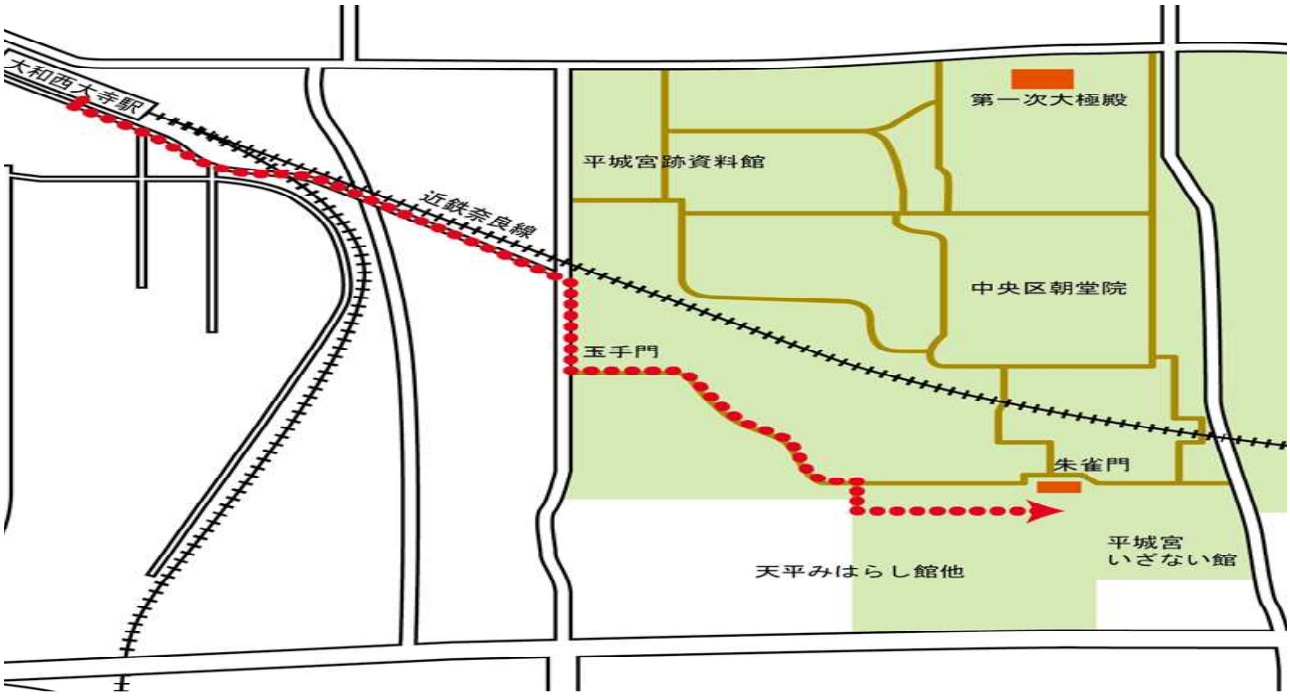
【近鉄奈良駅から徒歩 1 分、観光に最適！】
東大寺・奈良公園へなど観光地にも徒歩圏内のアクセス抜群のホテル。早朝、ホテル前に鹿が散歩に来ることがあるそうだ。駅前商店街での食事や買い物も満喫できる。
〒 630-8225　奈良県奈良市西御門町 16-1
TEL：0742-85-1045
FAX：0742-85-1046

(2) 平城宮跡探訪：「国営平城宮跡歴史公園」へ

奈良交通 路線バス

①近鉄大和西大寺駅南口から「朱雀門ひろば前」停留所まで約 6 分
②近鉄奈良駅から「朱雀門ひろば前」停留所まで約 16 分

路線バスはあったのだが、結局この時はタクシーに乗った。国営平城宮跡歴史公園の朱雀門広場に向かった。思ったより時間がかかってタクシー代は2千円超だった。朱雀門広場の中の駐車場までタクシーは入ってくれた。



国営平城宮跡歴史公園

「国営平城宮跡歴史公園」は、「古都奈良の歴史的・文化的景観の中で、平城宮跡の保存と活用を通じて、“奈良時代を今に感じる”空間を目指して、2008 年（平成 20 年）から整備を進めている国営の歴史公園で、「朱雀門」「第一次大極殿」「大極門」などが復原されている。

総合案内所で地図を貰って、朱雀門に向かったが、すでに陽は西に傾き、朱雀門は逆光で撮影できなかったので、翌日まだ陽の高いうちに再訪することにして朱雀門をスルーし、「平城宮いざない館」に向かった。「平城宮いざない館」は、これから平城宮を見る人のためのガイダンスをしてくれる施設なので、中澤さんが最初に見学することを計画してくれたのだ。

★朱雀門と朱雀門ひろば

「朱雀門」は平城宮の正門で平城宮の南端正面に位置する。朱雀門から平城京の入口の羅城門まで道幅約 75 mもの朱雀大路がまっすぐ続く。かつて門前では、元日や外交使節の送迎の際に儀式が行われたほか、都の男女が恋の歌をかけあう歌垣（うたがき）なども催された。

★朱雀門ひろば脇の観光施設

現在では、復元朱雀門の広場の南に復元朱雀大路があり、その東側は「平城宮いざない館」、西側は「観光交流施設」が整備されている。

★朱雀門広場の「いざない館」とは

開館 9：00 ～ 17：00（入館は 16：30 まで）平城宮跡歴史公園内施設は全館入場無料

奈良時代を今に感じる「平城宮跡」を伝え、往時の面影へといざなうガイダンス施設。時空を超えて奈良時代の平城宮を体感し、出土品や資料のよみときに驚き、公園のいまを楽しむなどの体験をすることができる。

「いざない館」には４つの展示室が

◎展示室１「平城宮跡の今」：平城宮跡歴史公園の見所紹介

◎展示室２「平城宮のようす」：1300 年前の平城宮にタイムスリップ

平城宮全域の復原模型（1/200）や大型映像、平城宮一日絵巻など、往時の平城宮に入り込んだような空間の中で、奈良時代の雅な世界を楽しめる。

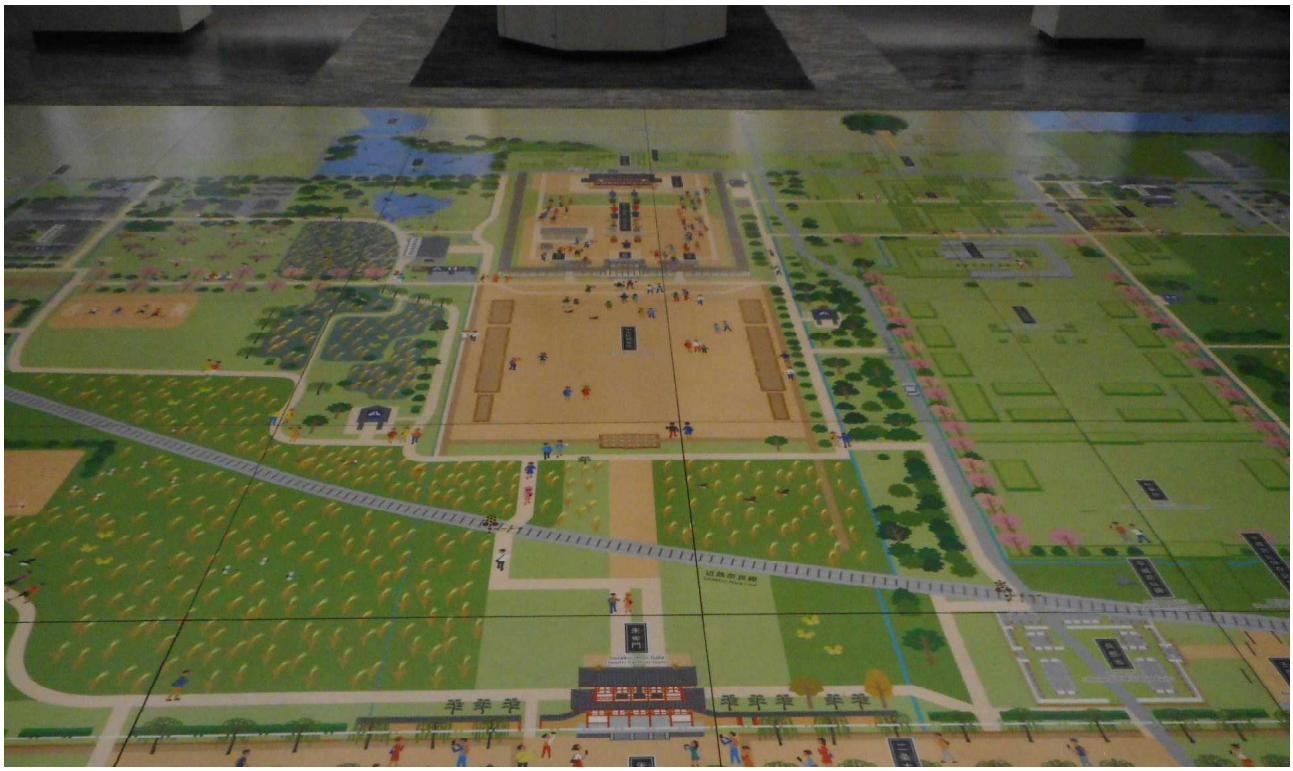
◎展示室３「往時のいとなみ」：平城宮の匠の技や役人の仕事を体験

第一次大極殿復原にあたり製作された構造模型（1/5）を間近に見ながら、組物・瓦葺き・木簡文書づくり・古代衣装体験などさまざまな体験を楽しめる。

◎展示室４「時を越えて」：出土品と資料からよみとく奈良時代

奈良文化財研究所による継続的な発掘調査・研究により明らかになってきた平城宮・平城京の姿。現代人に共感できる視点で出土品や資料を紹介。

［平城宮の地図］　中央北部が第一次大極殿院、中央が朝堂院、南端の門が朱雀門



◎平城宮の主な見所

「復元第一大極殿院と復元大極門」「第二次大極殿院復元基壇」「内裏跡」「推定宮内省跡」「復元東院庭園」「復元朱雀門」「平城宮跡史料館」「遺構展示館」など

◎当時の土木工事・建築工事

平城京遷都の詔から遷都実行までわずか2年の間に、丘を削り谷を埋める造成と河川を付け替える土木工事、宮殿を初めとする京内の様々な建築まで行うために、毎日地方から強制的にかり出された何万人もの人が毎日重労働にかり出された。中にはあまりのつらさに逃げ出す者もいたという。

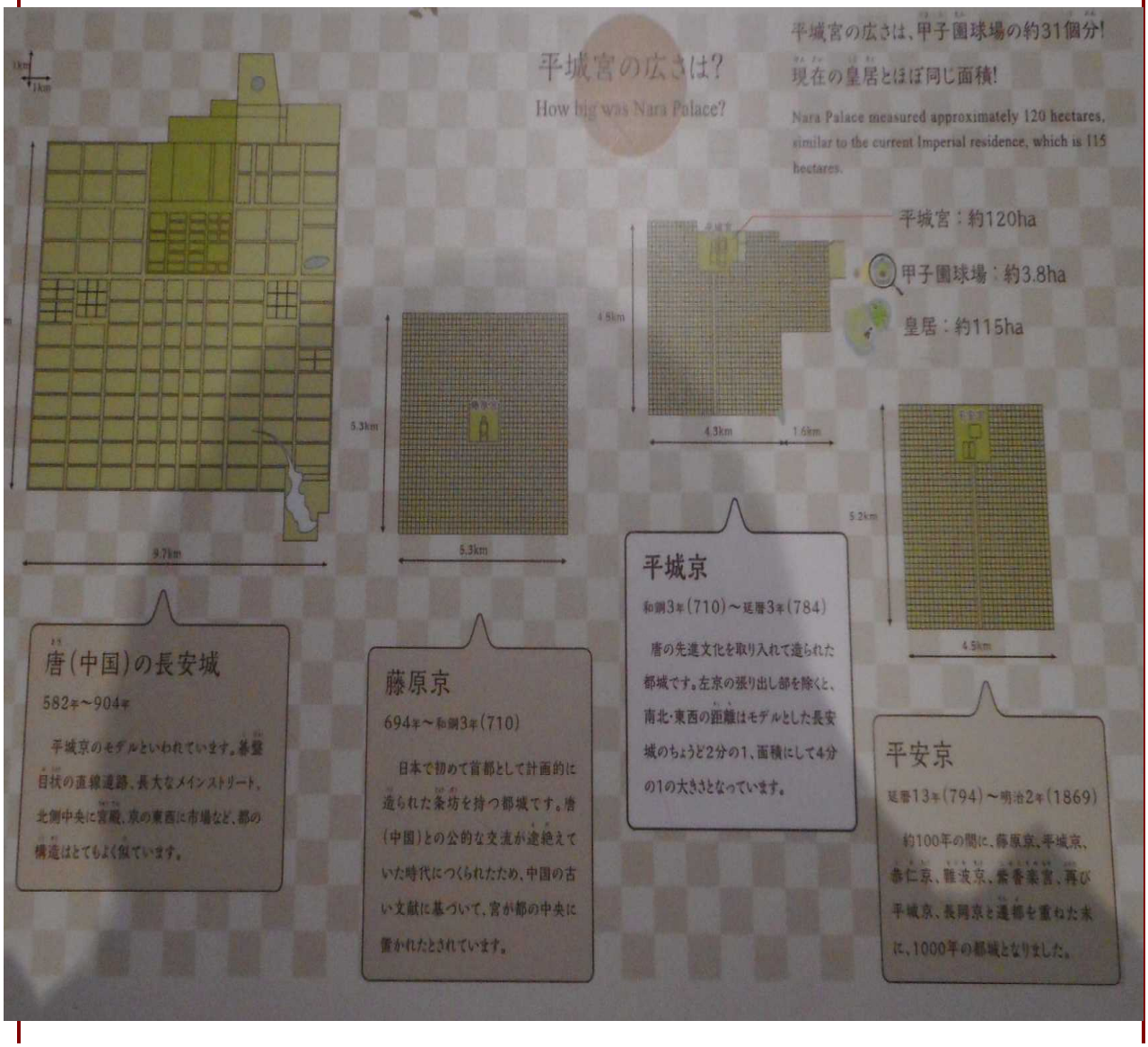
◎資材の調達

木材は藤原宮の資材の再利用が行われたほか、滋賀県の田上山などで伐採され、厳しい管理の下で平城京に運ばれた。石材は兵庫県加古川市周辺で産出する凝灰岩の竜山石などの他、飛鳥や藤原京で使用された花崗岩の飛鳥石の礎石なども再利用された。

◎特別な役所:造宮省と造京司

普段は宮城の修理などをしている「造宮職」という役所は、平城京を造るために「造宮省」に格上げされた。街づくりや道路づくりをするために「造京司」という臨時の役所が設けられた。「造宮職」と「造京司」は平城京を造っている時は「津料国家の中央官庁の「二官八省」よりも大規模だった。

◎4つの京の比較(長安城・藤原京・平城京・平安京)



◎都の遷都（平城京→恭仁京→難波京→紫香楽宮→平城京→長岡京→平安京）

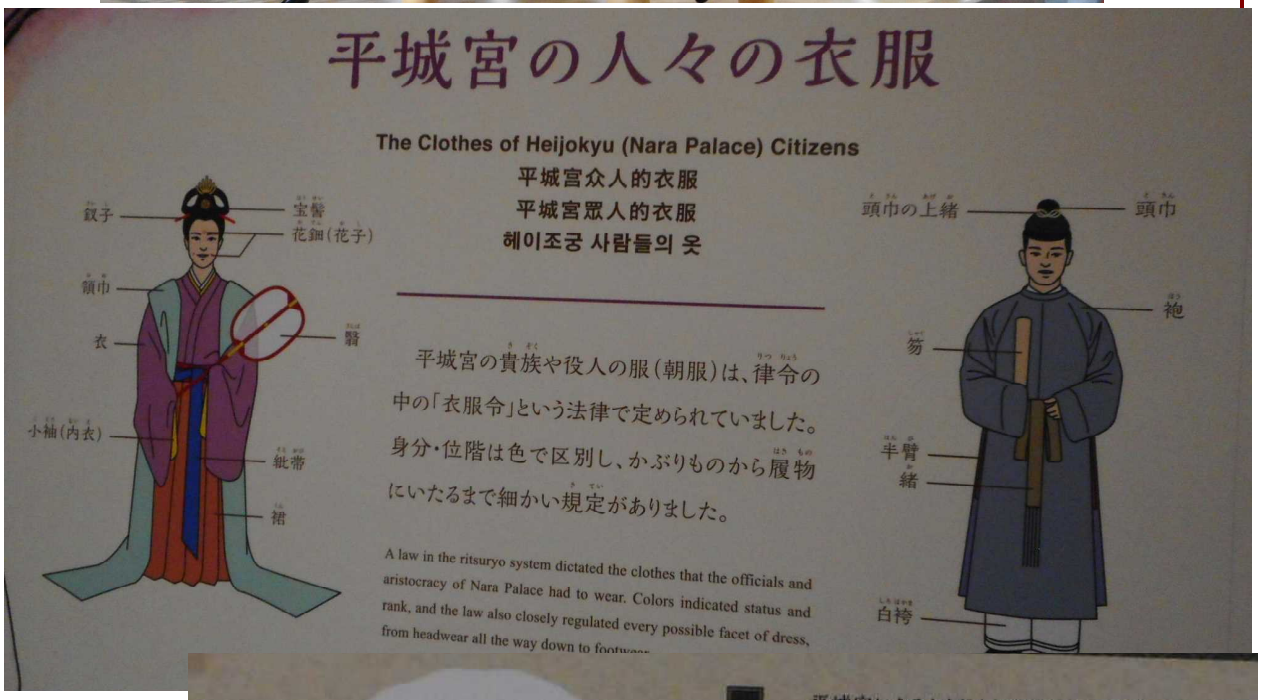
奈良時代（710～794年）に、聖武天皇は天平12年（740年）から天平17年（745年）の5年間に「恭仁京」「難波京」「紫香楽宮」「平城京」と遷都した。710～740年を奈良時代前期、745～794年を奈良時代後期という。

◎平城宮の東区に内裏

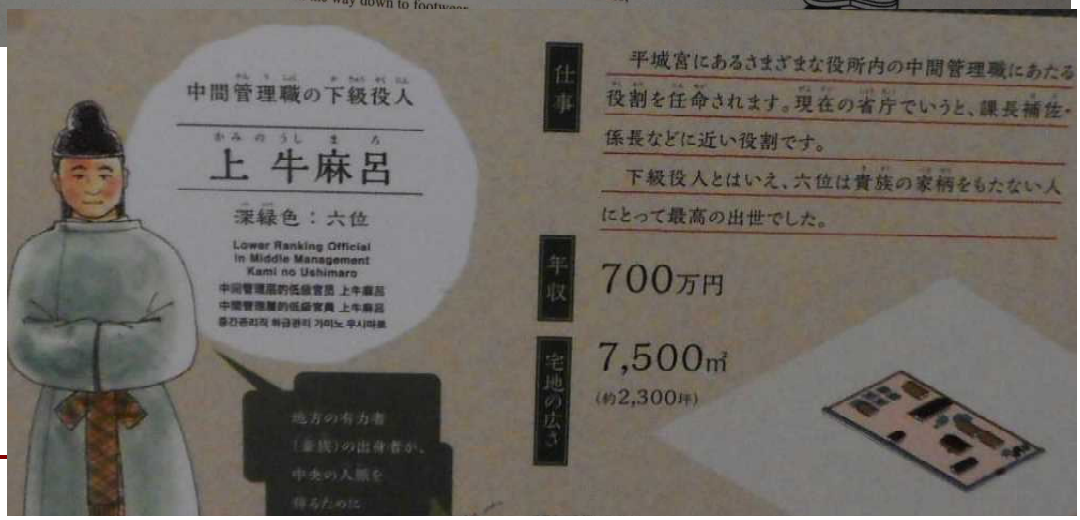
内裏は天皇の住居で、檜皮葺（ひわだぶき）の純和風建築。

◎平城宮の建物の木組みの見本

◎朱雀門の木組み



◎平城宮には約７千人の役人がいた



★朱雀門広場の西に「交流施設」（天平うまし館・天平みつき館・天平みはらし館・天平つどい館）

「いざない館」を出て、朱雀門広場を渡ると、4つの「交流施設」はあったのだが、結局この時は「いざない館」でたっぷり時間を使ってしまったので、また翌日に訪れることとした。

(3) 近鉄奈良駅前に帰る

朱雀門広場でバスを待った。バスに乗車して近鉄奈良駅前に向かった。バスは途中、奈良市役所やJR奈良駅前に立ち寄って15分ほどで近鉄奈良駅前に到着した。

(4) 夕食は近鉄奈良駅前で

近鉄奈良駅前でバスはホテル東横インの向かい側に到着したので、我々はホテルに行かず、先に夕食を食べることにした。バス停のすぐ前に飲食店街が伸びていたので、そこに入った。すぐそばに「餃子の王将」があった。中澤さんの提案で、本日は「餃子の王将」で夕食となった。別に奈良だけでなく全国展開の店だが、池田も「餃子の王将」は初で有、今日は餃子を食べたい気分であったので入店した。すると店は満席でしばらく待つことになった。5･6分ほど待ってようやく席に着くことができた。

餃子は二人で4皿、他にエビチリとレバニラを食べた。結構お腹いっぱいになった。それでも結構安かった。

(5) ホテルに戻る

「餃子の王将」を出てすぐに向かい側の東横インに向かった。5分もかからなかった。

まずはホテルでチェックインをして、預けておいた荷物を受け取った。

部屋は4階だった。部屋に着くとすぐにベッドに横になったらいつの間にか寝てしまったらしい。途中1時間ほどで気がついて、風呂に入ってもう一度本格的に眠りに入った。

【2日目】2025年3月29日（土）

今朝は7:30にホテル1階食堂に集合して、食事をとった。東横インは簡単な食事をビュッフェ方式で用意しているのでありがたい。